



寺報

2016年(平成28年)

No. 247

6月号

Zenkyo-ji monthly
Communications Paper
E-n [えん]

縁

仏説阿弥陀経の絵解き その2

「仏説阿弥陀経変相(善光寺蔵版)」(嘉永元年 森田易信 筆による木版画)

「仏説」とは「お釈迦様」がお説きになったお経という意味。

「阿弥陀経」は浄土三部経の一つで、「阿弥陀仏」と「極楽」について説かれたお経。

「変相」とは「お経に文字で書かれてあることを、絵に見える」という意味。

極楽には、阿弥陀さまがいらっしゃいます。

はるか西のかなたに、「極楽」と言う名前の世界があります。

まずは、極楽の様子を見てみましょう。

極楽には、「阿弥陀」という名前の仏さまがおられて、人々に教えを説いています。

正面を向いて座ってらっしゃるのが阿弥陀さま、左右は菩薩さま。

その世界がなぜ、「極楽」という名前かといと、「苦しみ」は無くて、「楽しみ」だけが有るからです。



正面が阿弥陀さま、左右は菩薩さま

極楽には、美しい樹木があります。
極楽には、「七重の垣根」、「七重の網飾り」、「七重の並木」があります。
それらの樹木は、金・銀・青玉・水晶の4つの宝でできています。
極楽は、このように美しいところです。

極楽には、美しい池があります。
極楽には、七宝で出来た美しい池があります。
青、黄、赤、白の4色の蓮の花が咲いています。

極楽の美しい樹木



極楽の美しい池

「青色青光、黄色黄光、赤色赤光、白色白光」と、阿弥陀経の中にありますように、それぞれ光を放っています。

蓮の葉に乗って遊んでいる人もあります。

新しく極楽に生まれた人が、蓮の花に乗って阿弥陀様に合掌しています。

極楽は、このように美しいところです。



2010年初参式



2011年初参式

「初参式」へお誘いします。すると、返つてくる言葉が、「初参式」と確かに、お宮参りが一般的であります。赤ちゃんは、お宮さんへお参りするだけかと思つていました」と。確かに、お宮参りが一般的であります。寺の本堂へお参りされることも、忘れないで下さいね。生まれたばかりのお子さまも、みるみるうちに体も心も成長していくことでしょう。その最初のときに、お子さまと共に親御さまも仏さまに手を合わせ、生まれたことの意味を確かめていただきたいと思います。

親として生きる出発点であり、赤ちゃんによつて与えられた尊い仏縁であります。このように、仏縁を頂くご縁というのは、普通の生活においては、そんなに多くはありません。赤ちゃんによつて与えられた尊い仏縁、大切になさつて下さい。そして、お子さまが大きくなつた時、「初参式」の話を語つて頂けたらと思います。

住職レター

毎年この時期に開催します「初参式」(善教寺仏教婦人会主催)。今年は五月二十九日に勤めます。「初参式」とは、お子さまの誕生後、初めて仏事へお参りし、赤ちゃんがいらっしゃると、おまの前で手を合わせ、お祝いする行事です。

法事へお参りすることも、忘れないで下さいね。赤ちゃんは、お宮さんへお参りするだけかと思つていました」と。確かに、お宮参りが一般的であります。寺の本堂へお参りされることも、忘れないで下さいね。生まれたばかりのお子さまも、みるみるうちに体も心も成長していくことでしょう。その最初のときに、お子さまと共に親御さまも仏さまに手を合わせ、生まれたことの意味を確かめていただきたいと思います。